

vol.44
2018.8

特集

「乳腺センター」が開設されました

各科だより	動脈硬化という病気	循環器内科	2・3 P
部門紹介	医師事務支援室のご紹介		4 P
新任医師紹介			5 P
がんとともに自分らしく生きるために			6 P
病院のニューフェイス			7 P
院長伝言板			8 P

市立砺波総合病院憲章

わたくしたちは、市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし、愛と奉仕の精神のもとに、病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し、この憲章を定めます。

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 医療の安全を追求し 信頼される医療を提供します
- 1 医療・福祉・介護・保健分野との連携に努め 地域医療の推進に努めます
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします
- 1 健全な病院経営に努めます

理 念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

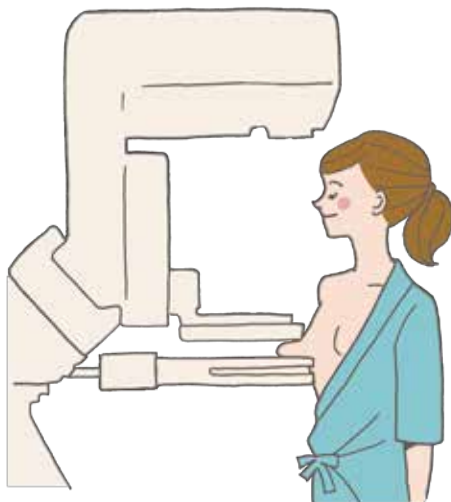
〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.lg.jp
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

「乳腺センター」が開設されました

乳腺専門医の赴任に伴い、2018年4月より当院に「乳腺センター」が開設されました。

市立砺波総合病院 外科 部長

乳腺センター 所長 野崎善成



●よりわかりやすい窓口をめざして

乳腺センターでは、乳がんをはじめとする乳腺（乳房）の様々な病気の診断と治療およびケアを行います。今までは「乳房にしこりがある」「乳頭から分泌物がある」などの自覚症状がある場合や、乳がん検診で精密検査が必要とされた場合に当院のどこへ行けばよいのか、わかりにくかったかもしれませんが、今後は「乳腺センター」が窓口となります。

また、他の病院で乳がんの治療を受けられている方に対するセカンドオピニオンも当センターで行っています。

●チーム医療の核として

乳腺疾患、とりわけ乳がんの診断と治療においては画像診断、病理診断、手術、薬物療法、放射線治療、さらには乳房再建手術など、専門的な知識と技術が必要です。また、患者さんが抱える、治療や、病気の進行に伴う様々な身体症状、気持ちのつらさ、生活上の問題などに対するケアも重要です。

当センターでは日本乳癌学会の乳腺専門医が中心となり、個々の患者さんにとって何が最善かを診療科や部署、職種の垣根を越えてよく話し合います。当センターは乳腺疾患の患者さんに対する「チーム医療」の核となっています。



外来スタッフ

●正確な診断は複数の医師の話し合いから

週に一度「乳腺疾患カンファレンス」を開催しています。ここではマンモグラフィ、超音波などの画像所見と手術や組織生検により得られた病理所見とを照らし合わせ、検査に携わった技師、診療医、画像診断医、病理診断医がよく話し合っており、乳腺疾患の診断や治療法の検討を行っています。患者さんと接する診療医の考えのみにとらわれることなく、患者さんにとって最適な治療は何かを多くの医療従事者で考えているのです。

●形成外科との連携で

乳房同時再建手術が可能に

乳がんに対する手術においては、「病気が治ればよい」という時代から、より体への負担の少ない手術や、なるべく見た目の変化が少ない手術が求められる時代になりました。従来から当院では精度の高い術中リンパ節転移診断や、仕上りのきれいな乳房温存手術など質の高い乳がん手術を行ってきましたが、当センターの開設を契機に、形成外科との連携をより一層強化し、治療によって乳房が失われる患者さんに対する同時再建手術が

可能になりました。同時再建手術とは乳房を切除すると同時に、乳房を作り直す（再建する）、もしくは再建のための準備手術を行う手術のことです。この手術は手術後の乳房の喪失感がなく、患者さんの生活の質を保つことができるため近年、関心が高まっている手術です。



技師スタッフ

といえます。しかし、人体に長い間入っていることになるインプラントの扱いには細心の注意を払う必要があるため、この手術を行うためには厚生労働省および学会が定めた厳しい施設基準を満たす必要があります。このたび当院は乳腺センターの開設とともに、この施設基準をクリアし、インプラントを用いた乳房同時再建手術が可能となりました。



インプラント

出典：アラガン・ジャパン(株)

乳房の再建法には様々な方法がありますが、「インプラント」と呼ばれる人工乳房を用いた手術は乳房切除手術と同じキズのみで乳房の再建ができるため、安体（あんたい）に優しく、安全性の高い手術

●最新の薬物療法を安全に

乳がんに対する薬物療法は日進月歩で、以前とは比べ物にならないほど複雑かつ専門的になっていきます。乳がんは薬物療法が良く効くことが多く、適切な薬物療法を行うことは再発の予防のため、また長期に生存するためにも重要です。当センターでは治療経験が豊富な乳腺専門医が中心となり、各種ガイドラインにより推奨されている標準治療をベースに、患者さんとよく話し合ったうえでその患者さんに合った薬物療法の選択を行います。抗がん剤を使用する場合は化学療法室と連携し、安全に治療が行えるように留意しています。

●放射線治療も当院で

放射線治療は乳がんの術後再発の予防や再発時の痛みの緩和等に不可欠な治療法です。当院には日本医学放射線学会の放射線治療専門医が常勤しており、当センターと緊密な連携が可能な環境が整っています。治療装置も昨年更新され、治療の精度の向上が図られています。

●治療を受けながらも自分らしい生活を

当センターでは乳がん患者さんがかかえる、治療に伴う副作用や、病気の進行に伴う様々な身体の症状、気持ちのつらさ、生活上の問題などに対して、各領域の専門・認定看護師、緩和ケアチーム、社会福祉士等が「チーム医療」で対応し、患者さんが自分らしく生

活できるようにサポートしています。

●地域の皆様のために

わが国において乳がんはいまだに増加傾向にあり、日本人女性の12人に1人が乳がんにかかるといわれています。また、昨今の著名人の乳がんの報道を目にして不安になる方も多いかと思えます。しかし乳がんは早期発見、早期治療をすれば多くが完治しますし、完治しなくとも治療が良く効き、長期生存が期待できます。ぜひ忘れずに乳がん検診を受けていただくとともに、「要精検」とされた方はなるべく早く当センターを受診してください。乳房の様々な症状がある場合も一人で悩まずに早めに当センターを受診いただければと思います。地域の皆様のお役に立てるよう、スタッフ一同、努力してまいりますので、乳腺センターをよろしくお願ひします。



カンファレンススタッフ

	月	火	水	木	金
午前	○	休診 (手術)	○	○	○
午後	休診 (手術)	休診 (手術)	予約のみ	予約のみ	休診 (手術)

受付 初診 8:15~11:00
 再来 (受付機) 8:00~11:00
 予約 随時

動脈硬化という病気

循環器内科では全身の循環を
あずかる臓器である心臓と血管
の疾患をおもに診療しています。
突然死をするような緊急性のあ
る疾患から慢性的な疾患まで
様々な疾患を管理していますが、
特に当科では動脈硬化性疾患の
診療に力を入れて取り組んでい
ます。

動脈硬化とは全身に血液を届ける血
管である動脈の壁が硬く厚くなった状
態を言います。動脈硬化が引きおこす
問題としては①血管内の圧力が高くな
る(高血圧)②臓器への血液供給の低
下があります。いずれも命に関わった
り生活の質を大きく落とす疾患の原因
となるため、動脈硬化がおこらないよ
うに努めることが重要です。

動脈硬化は血管の壁に炎症がおこり
発生すると考えられています。喫煙や
高血圧、高血糖などが血管の壁に傷を
付け、その傷からコレステロールや白
血球などの炎症細胞が血管の壁に入り
込み、傷の修復と再生を繰り返すこと
で徐々に血管の壁が硬く厚くなってい
きます。残念ながらおきてしまった動
脈硬化は薬や手術では元通りに改善し
ません。

硬くなった血管は広がりにくくな
り、血管の中の圧力が高くなります。
その状態を高血圧といえます。高血圧
はさらに動脈の壁を傷つけ動脈硬化を
促進し、血圧を上昇させる悪循環に陥
ります。そのため、高血圧は全身の血
管の動脈硬化を悪化させ、臓器への血

流不全をおこし、臓器障害をおこしま
す。また、血管自体がもろくなり、血
管が破裂したり、裂けたりして致命的
な状態となる場合があります。

2番目にあげた臓器への血液供給の
低下ですが、これは動脈の壁が肥厚し、
血管の中が狭くなる事でおこります。
血液は臓器に必要な酸素と栄養を届け
ているので、血液の量が減ると臓器は
機能が低下したり、壊死したりします。
人間の臓器は現時点では再生する技術
はまだありませんので、血流低下に
よっておきた臓器の障害は回復しない
事が多いです。

以上のとおり、動脈硬化はおこさな
い事が肝心であり、またおきてしまっ
た後も進行させない事が重要です。そ
のため、当院では循環器内科だけでは
なく、血糖やコレステロールの専門家
である代謝内科や、血圧を管理する臓

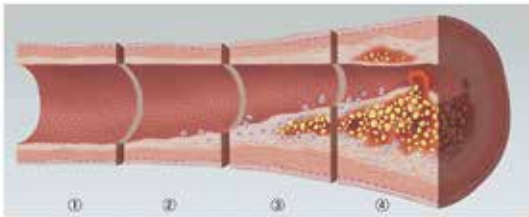


図1 動脈硬化の進展図

- ① 正常な動脈
- ② 動脈の壁が厚くなり始めた状態
- ③ コレステロールなどが蓄積し動脈硬化が進行(プラークの形成)
- ④ プラークが破裂し、血管閉塞をおこす(梗塞)

出典：インフォームドコンセントのための心臓・血管病アトラス

器である腎臓の専門家である
腎臓内科、喫煙を指導する禁
煙外来など複数の診療科でみ
なさんの治療にあたっていま
す。

動脈硬化がおきることで引
きおこされる有名な疾患には
脳梗塞、虚血性心疾患(心筋
梗塞・狭心症など)、大動脈瘤・
大動脈解離、閉塞性動脈硬化
症があります。いずれの疾患
も痛みや臓器の運動障害など
の自覚症状が出る場合が多く
見られます。特に心臓や四肢
の症状は歩行などの運動時に
悪化することが多く、症状が
ある場合は当院やかかりつけ
医に相談される事をお勧めし
ます。

しかし、糖尿病で神経障害がおきた
り、ゆっくり動脈硬化が進む事で臓器
が血流低下になれてしまうことで症状
が出ない方もいます。そのため、動脈
硬化の危険因子が多い方の場合は自覚
症状が無くても定期的な診察と心電
図、下肢の血圧測定などのスクリーニ
ング検査も行い早期発見に努めること
が重要です。

おきてしまった動脈硬化性病変に対
して、当院では心臓や下肢血管につい
てはカテーテル治療を積極的に行って
います。図2に示したとおり、カテー
テルという細い管を手や足の動脈から
血管内に挿入し、狭窄した部分を内側
からバルーン(風船)で広げて血流の



図2 心臓のカテーテル治療

狭窄した冠動脈(心臓の血管)にワイヤーを通してバルーン拡張・
ステント留置で狭窄を解除しています。

出典：インフォームドコンセントのための心臓・血管病アトラス

増加を図ります。
動脈硬化が元に戻
るわけではありませんが
せんが狭窄を解除
することで血流が
増加し、症状の消
失や臓器の機能の
回復が期待できま
す。治療に際して
は入院が必要とな
りますが、細い管
が体に入るだけな
ので数日間の短期
間で退院が可能です
。また、治療後
には定期的な経過
観察・検査が必要
となりますが、当
院では治療後も手
厚く支援しており
ます。

動脈硬化はそれを引きおこす原因に
対しての治療と、動脈硬化自体への治
療が必要となる疾患です。そのため、
様々な診療科があり、検査・治療も可
能である当院のような総合病院を受診
される事をお勧めしています。当院で
は砺波地区のかかりつけ医とも密接な
連携をとっておりますので、動脈硬化
による症状があったり、精密検査を希望さ
れる患者様はかかりつけ医と相談し、
当院にお越しいただければいつでも対
応させていただきます。その際には必
要な精密検査・治療が済みましたら、引き
続きかかりつけ医で治療を継続して
いただけるように逆紹介をさせていただ
いています。

循環器内科

医長 黒川 佳祐

医師事務支援室のご紹介

医師事務支援室 主幹 高原 希史子



医師事務支援室とは、その名称の通り「医師の事務仕事を助ける」ことを目的とした部門です。そこで働く職員の正式名称は「医師事務作業補助者」と呼ばれ、また「医療秘書」や「医療クラーク」という名称もあります。



医師事務作業補助者が設けられた背景

近年、医療の高度化や救急搬送の増加に伴い、医師の過労が社会問題となっています。長距離バス運転手の長時間勤務が安全な運行に問題となったことはご存知と思いますが、バス運転手と同様に医師の過労は安全な医療を提供する妨げになるのです。そのような背景の中、厚生労働省は医師の負担を軽減させるため様々な対策を講じてきました。その一つが医師事務作業補助者であり、診断書などの書類作成を代行するようになりました。医師が診療や手術といった本来の仕事に集中できるよう、2008年度から始まった制度です。欧米では昔からある業種ですが、日本では始まったばかりの比較的新しい部門といえます。



医師事務支援室の仕事とは

先ほど述べたように、診断書などの書類を作成することが主な仕事です。医師が書類を作成するのに要する時間を仮に1枚10～30分と見積もっても、多くの患者さんを受け持っているため、書類作成に費やす時間はかなりのものになっています。その業務を医師事務支援室が代行することで、医師は書類作成に時間を割くことなく、ゆとりのある診察や安全な手術を行うことができるようになります。したがって医師事務支援室は間接的に医療の質を向上させ、患者さんの利益になる仕事をしています。

「医師以外の方が診断書を作って大丈夫なの？」と心配される方もおられると思います。作っているのは下書きで、書類の最終確認は医師自身が責任をもって行っていますので安心してください。

また仕事は書類作成のほか、診察室でのお手伝いや病院統計の入力作業なども行っています。

医師事務作業補助者になるには？

特別な資格は必要ありませんが、医療関係の書類を作るために基礎的な医療知識を学ぶ必要があります。当院では、初めての方にも丁寧に指導しており、指導者として医師も参加しています。概ね2-3年で様々な書類を作成できるスキルを身につけることができます。また、病気の診断方法や治療についても知ることができ、自分自身にも役立つ知識を得られます。

私たちは医師事務支援室の一員として向上心を忘れずに頑張っています。当院で一緒に働きたいと思われる方がおられましたら、お待ちしております。

新任医師紹介

血液内科

松浦 絵里香

地域の皆様の健康維持に役立てるよう、頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

糖尿病・内分泌内科

毛利 研祐

誠意をもって診療にあたらせて頂きます。よろしくお願いいたします。



腎臓内科

和田 高明

砺波地域の皆様方の医療に貢献できるよう、尽力させていただき所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

外科（乳腺センター）

野崎 善成

砺波地域の皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

小児科

加畑 映理子

祖母の故郷である砺波で働くことができ、嬉しく思います。微力ですが子ども達の為に頑張ります。

作村 直人

子どもの苦しみや保護者の不安に寄り添う診療を行います。子どもの事であれば何でもお気軽にご相談ください。



消化器内科

小川 憲彦

消化器疾患を中心に、砺波地域の内科医療に貢献出来るよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

産婦人科

古村 恭子

砺波地域の医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



小野 洋輔

受診された皆さま1人ひとりに、丁寧で心ある医療を提供できるよう尽力します。

皮膚科

山本 由理

砺波市の医療に貢献しながら、研鑽を積んでいけるよう精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科

吉川 智美

皆様の健康に役立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



集中治療・災害医療部

宮越 達也

ドクターヘリの受け入れをはじめ、重症患者さんを中心に全力でサポートいたします。よろしくお願いいたします。



脳神経外科

堀 聡

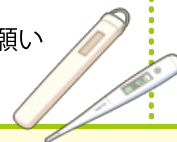
砺波医療圏の脳神経外科を支えていけるよう、頑張りたいと思います。



形成外科

川村 亮

砺波医療の一端を担えるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



森本 弥生

形成外科は外傷や、やけど、先天異常、腫瘍など幅広い分野があります。気軽に受診してください。

歯科口腔外科

平井 真理子

砺波市の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



元川 賢一朗

砺波歯科治療の一端を担える様に頑張りたいと思います。歯科治療でわからない事があったら気軽に質問してください。

病理診断科

垣内 寿枝子

小さな組織の検査から手術まで、皆さんの治療を黒子として支えます。よろしくお願いいたします。

放射線科

岩田 紘治

画像診断・治療の立場から、皆様のお役に立てるよう尽力します。





がんとともに自分らしく生きるために

がん看護専門看護師 平 優子

平成19年に当院は国指定のがん診療連携拠点病院に認可されました。がん診療連携拠点病院は、どこでも誰でも同じように治療や支援を受けることができるように様々な体制が整っています。

もっと大きな病院に行けば、良い治療を受けることができると期待することもあると思います。しかし、がん診療連携拠点病院であれば学会などが定めている標準的な治療や支援が病状に合わせて適切に受けることができます。

信頼できる良い病院や医療者にめぐり合うことはとても大切なことです。そして、自分や周囲の人はどのような時を過ごしたいのか思い描いておくことで、より充実した毎日が過ごせると思います。



がんと向き合っているあなたへ

あなたは今まで何を大切にしてお過ごししていましたか？
あわただしい毎日で自分がどんな人なのか考える暇もなかったかもしれません。
だけど、がんになったことがきっかけで自分自身を噛み締めながら過ごす機会になったはずです。

自分は何者なのか。これからどうしたいのか。
自分がどうしたいのかに気がつくことが自分らしい生き方の第一歩です。

病気になって、これからどうしよう。
どうして私が・・・と考えたこともあったかもしれません。
だけど、病気というものは、やみくもに人生を混乱させるものではありません。
付き合い方を覚えれば、それなりに仲良く過ごすことができるものだと思います。
がんも同じです。
がんと診断を受けて治療がはじまったとき、治療の効果が期待できないとき。病気がどんなものなのか、治療がどのように行われるのか、それを知ればもっとがんとの付き合い方がわかるかもしれません。
そのヒントをくれるのが医療者です。

あなたはひとりではありません。
私たち医療者が一緒に考えます。
もし、治療やいのちに対する不安があるなら

いろんなことを口に出して言う勇気がでないなら
あなたの身近な人に
信頼できる医療者に一言だけでいいので
つぶやいてみてください。
それが、がんと共存しながら自分らしく生きていく第一歩です。

どうせ、言っても痛みは良くならない。
時にはあきらめることで受け入れていくこともあるかもしれません。
でも、痛みを持っていることを周りの人に言えました。
周りの人は、あなたに気にかけることができます。
医療は病気の全てを治すことはできませんが、ケアはあなたのこころの支えになることができます。医療者はあなたのこころの支えになります。
支えになりたいと思っています。
どうか、がんを持ちながら自分の人生を歩むことをあきらめないでください。

私たちは医療の専門家です。
だけど、あなたのことは何もわかりません。
どうか、あなたのことを教えてください。
あなたが、がんと共に歩むために、あなたがどうしたいのか教えてください。
私たちは、あなたが困難に立ち向かう力を呼び起こすことを願っています。
あなたがあなたであるために、私たちは最善をつくします。

当院には、がんに関する相談窓口があり、専門家がたくさんいます。
わからないことがあればお気軽にお尋ねください。

当院の
がんに関する
相談窓口

がん相談支援センター

とき 平日9時～16時 場所 南棟2階
がんに関する相談全般

緩和ケア科

とき 平日9時～16時 場所 外来2階
身体やこころの苦痛を和らげる専門外来

おあしす

とき 平日9時～16時 場所 正面玄関横
家で療養に関する相談



がん相談支援センターの
マークができました

イラスト：絵本作家 吉水 友香さん

わたしたちが
病院のニューフェイスです!



院長伝言板

交通事故 ～ガラスのように壊れやすい「幸せ」～

私は、脳外科医として交通事故の被害者と加害者を何度も目の当たりにしてきました。

被害者の家族はベッドサイドで患者の手を握りしめ、体をさすり、嗚咽しています。加害者とその家族は、病室の廊下にひれ伏して頭を上げることもできません。双方の家族とも、それまでの平穏な生活が嘘のようです。

一人で運転していても、車には家族全員の「幸せ」が乗せられています。すれ違う車、追い抜いていく車、それぞれの車にも何人もの「幸せ」が乗せられています。誰も交通事故を起こそうとは思っていません。しかし、スマホを見ながらの

「ながら運転」、無理な追い越し、黄色信号での猛スピード交差点侵入などは、いくつもの「幸せ」を危険にさらしているのです。

毎日、車を運転している皆さんも私自身も、加害者でも被害者でもありません。これは、途方もなく「幸せ」なことです。しかし、車に乗せられている「幸せ」は、ガラスのようにとても「壊れやすい幸せ」であることを、今一度、心に刻みたいと思います。



『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見通し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかかり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

□ 新患 午前 8 時 15 分から午前 11 時まで

□ 再診 午前 8 時 00 分から午前 11 時まで

※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始